

本書の構成と使い方

これまでのラテンアメリカ経済に関する教科書では、「経済の成り立ち」を先に説明することが多かったのですが、なじみのない概念が次々に出てくると、読者は理解できずに前に進めないことがあります。そこで本書では、まず具体的な事象を取り上げたのち、経済の仕組みや歴史上の位置づけについて説明しました。

まず第Ⅰ部では、学生が興味をもちやすく比較的理解しやすい「現代の課題」に注目します。第1章はラテンアメリカの概要として、基礎指標のほか、地勢や気候の多様性、経済の時期区分について説明します。第2章は貧困と格差について、それらを測る指標について考えます。第3章は保健と教育に注目し、開発におけるそれぞれの意味やいくつかの指標の変化を確認します。第4章はインフォーマル経済について、その意味と実態を説明し、インフォーマル雇用をなくすための方策を考えます。第5章は人の移動を取り上げ、ラテンアメリカが移民の受け入れ先から送り出し元へ変わったことやその理由を説明します。第6章は開発と環境を取り上げ、資源開発と環境保全が対立する理由と解決策を検討します。第7章は開発途上国の社会的課題を解決する国際開発を取り上げ、それに取り組む公的部門や民間部門のアクターとその活動内容を紹介します。

次に第Ⅱ部では「経済の仕組み」について、ラテンアメリカの特徴に注目しながら説明します。第8章では貿易を取り上げ、そのメリットとデメリットや、現在のラテンアメリカと世界の結び付きについて、具体的な統計を確認しながら検討します。第9章では天然資源や農林水産品などの一次産品について、世界におけるラテンアメリカの重要性を確認し、経済発展との関係を考えます。第10章では工業化への取り組みについてアジア諸国と比較するほか、具体的な産業の発展を振り返ります。第11章では、ラテンアメリカと他地域の長期にわたる経済成長の推移を振り返り、経済成長を生み出す要因について考えます。第12章では、「失われた10年」を引き起こした対外債務問題に焦点をあててその経緯を振り返るとともに、その後の経済危機についても考えます。第13章ではインフレーションを取り上げ、その実態や仕組み、解決方法についてこれまでの経験を説明します。

最後に第Ⅲ部で「経済の成り立ち」を解説し、これまで取り上げたトピックを

歴史に位置づけて理解できるようにしました。第14章ではラテンアメリカの経済史について、一次産品輸出経済期と輸入代替工業化期を中心に説明しました。第15章は新自由主義(ネオリベラリズム)を取り上げました。ラテンアメリカにおける新自由主義にもとづいた経済改革の内容を説明するだけでなく、今日の生活における個人の自由と国家の役割についても考えます。

本書は全部で15章あります。学生が講義の前に目を通すことを想定し、各章の分量を1万字前後に抑えました。また、それぞれの章でできるだけ完結するように説明しており、講師が必要な章のみを選ぶこともできます。ラテンアメリカについてある程度の知識のある学生に対しては、はじめに第Ⅲ部で経済の沿革をおさらいしてから、第Ⅰ部と第Ⅱ部の個別の課題について詳しく説明することもできます。

履修の期間については、内容を理解するだけであれば、各章1回の講義で1学期(前期または後期)、学生の間で意見交換や課題発表をするのであれば2学期(前期と後期)を想定しています。

各章には、要約、学習目標、本文、キーワード、学習の課題、さらに学ぶための参考文献、引用文献があります。要約ではそれぞれの章で何を学ぶことができるのかをまとめました。学習目標はこの章を通じて学生が達成できる目標を挙げました。

学習の課題は、各章の理解を深めるために3つに分けてあります。「振り返ってみよう」は各章の内容の理解を確認する課題です。「議論してみよう」は各章の内容にもとづいて特定の問題について自分の意見をもち、授業などで議論をすることを目指しています。「調べてみよう」は文献やデータを調べて考察し、発表やレポートを執筆するための課題です。

経済学の用語については本文中で簡潔に説明するように努めましたが、複数の章で用いられる場合には巻末の「用語解説」でも説明しました。本文中の太字が用語解説で取り上げた用語です。eBookのPDF(一括)版とEPUB版では、太字をクリックすると巻末の用語解説をみることができます。用語解説では理解できない用語や、用語解説に掲載されていない用語については、経済学の基礎的な教科書を参照してください。たとえば、N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー入門経済学(第3版)』(東洋経済新報社、2019年)などがわかりやすいです。

なお、本書のいくつかの章では持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）について触れています。SDGsは2015年の国連サミットで加盟国が合意した、持続可能でよりよい社会の実現を目指す目標です。全部で17の目標があります。そのうち、以下の目標についてはその後に記した章で触れています。

- 目標1 貧困をなくそう 第2章<貧困と格差>
- 目標3 すべての人に健康と福祉を 第3章<保健と教育>
- 目標4 質の高い教育をみんなに 第3章<保健と教育>
- 目標8 働きがいも経済成長も 第4章<インフォーマル>
- 目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう 第10章<工業化>
- 目標10 人や国の不平等をなくそう 第2章<貧困と格差>
- 目標13 気候変動に具体的な対策を 第6章<開発と環境>
- 目標15 陸の豊かさを守ろう 第6章<開発と環境>
- 目標17 パートナリーシップで目標を達成しよう 第7章<国際開発>

なお、本書で利用した図表のデータや、世界銀行のWorld Development Indicatorsなどのデータベースの使い方を説明した動画は、以下のリンク先から参照できます。ぜひ活用してください。

『ラテンアメリカ経済入門』資料

<https://researchmap.jp/tshimizu1968/laecon>

また、本文中には各所にオンライン資料参照用のハイパーリンクをつけています（下線を引いてある語句）。本書をPDFもしくはEPUB版で利用している場合はそのままクリックして参照ください。本書をプリント・オン・デマンド版で利用している方は、アジア経済研究所のウェブサイトからPDF版を入手してリンク先をご確認ください。

以上